

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

北海道大学

前期日程

科目

英語

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

例年通り、英文読解問題が2題、英作文問題が1題、会話文要約問題が1題の大問4問の構成であった。読解問題の①と②は、それぞれ「ラップ音楽の歴史と現状」と「タイの僧侶の食事と姉の家でのクリスマスディナーの共通点」をテーマとした英文であった。①はラップにあまり馴染みのない学生にとってはやや読みにくかったと思われる。②も昨年度に比べるとやや読みにくい英文であった。さらにその2カ所の下線部訳はいずれもやや訳しにくく、ここで苦戦した学生も多かったと思われる。③の英作文は、「ヌードルハラセメント」がテーマ。これも昨年の「オーバーツーリズム」に比べると馴染みの薄いテーマであり、やや書きにくく感じた学生も少なからずいたと思われる。パニックに陥ることなく、本文の内容を利用しながら書けたかどうかポイントであろう。④の会話文要約問題は「空所ごとに選択肢が与えられる形式」ではなく「選択肢がまとめて与えられている形式」であった。要約文と選択肢だけから解ける問題も多いので、要約文の方から読むのも一つの手である。

〈特記事項・トピックス〉

- 1 今年度の読解問題では、「英文和訳問題」「空所補充問題」「下線部の意味内容として適切なものを選択する問題」「内容一致問題」が出題されたが、「説明問題」は出題されなかった。ただし、来年度は復活する可能性が大いにあるので、準備を怠ってはならない。
- 2 作文問題は、Question A と Question B の空所が昨年同様4つであったが、それほど記述量は多くなかった。Question C は北大でよく出される「〇〇に賛成・反対」という形式の問題ではなかった。
- 3 会話文要約問題は、6年連続で選択肢がまとめて与えられている形式であった。

〈合格への学習対策〉

読解問題では北大特有の特殊な設問が出題されることはないので、まずは英文読解の基礎を徹底的に固め、正確に英文を読む力を養うことが何よりも大切である。作文問題は自由作文タイプであるため、最終的には自分の考えを英文にまとめながら、一定量の英文を書く訓練が必要となるが、まずは文法を習得し、多くの例文をインプットすることが不可欠である。会話文の要約問題は、選択肢を念頭に置き要約文を読むだけで答えが決まる問題もかなりあるので、要約文の方から読むなど解き方をいろいろ工夫してみるとよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述・客観	読解 「ラップの歴史と現状」	問1 下線部和訳問題(記述) era や genre といった語彙を知っていたか、また industry control が表す内容がつかめていたかどうかポイント。 問2 空所補充問題(客観) ラップの起源を論じているパラグラフであり、歴史的な起源を表す表現としては be traced back to ... が最適。 問3 下線部の内容として適切なものを選ぶ問題(客観) 文中に「Black Power (ブラック・パワー) を推し進めた」とあるように、Public Enemy などのグループは、黒人社会が受けていた差別や不当な扱いに対して「権威(警察や政府など)」へ怒りを表明したと考える。 問4 下線部和訳問題(記述) This の内容を明らかにした上で和訳することが求められている。and がどこどこをつないでいるのかを正確に把握したかったところ。 問5 空所補充問題(客観) ここまでの内容、及びこの英文の最後に「ラップが音楽業界を裕福にした」と述べられていることがヒント。 問6 内容一致問題(客観) 本文の内容と一致するものを2つ選択する。	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

2	記述・客観	読解 「タイの僧侶の食事と姉の家のクリスマスディナーの共通点」	問1 下線部和訳問題（記述） struck me, on each bite あたりの意味がわかったか否かで得点差がついたと思われる。 問2 下線部の内容として適切なものを選ぶ問題（客観） 第1パラグラフの後半に書かれている内容が根拠となる。 問3 空所補充問題（客観） 姉の家でのクリスマスディナーの様子を表すのに適切な表現を選ぶ。 問4 空所補充問題（客観） 意味だけではなく文法的な考慮も必要な問題。（ウ）には though のような接続詞を入れることはできない。 問5 下線部和訳問題（記述） This の指す内容を明示した上で和訳することが求められている。accessible の訳語に迷った人も多かったはず。 問6 内容一致問題（客観） 本文の内容と<u>一致しない</u>ものを2つ選択する。	標準
3	記述	作文 「ヌードルハラスメントについて」	Question A （記述） 第2パラグラフの内容に対応させればよい。 Question B （記述） 第3パラグラフの内容が該当箇所。 Question C （記述） 「外国人の隣で麺類を食べる場合、音を立てて良いか、いけないか」を書く問題。例年通り語数は70～100 words であった。	やや難
4	客観	会話文要約 「電気自動車の是非」	今年度も「選択肢がまとめて与えられている形式」であったため、やや煩雑に感じた人もいるかもしれない。空所を補充する際には「意味」だけではなく「文法」も考慮する必要がある。そこで、空所に入れる語句を考える際には、そして選択肢に目を通す際にも、意味だけではなく、「品詞」を考えることを忘れないでほしい。要約文と選択肢を見るだけで埋められる空所もあるので、必ずしも先に会話文を読む必要はない。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。